

フレキシブルな発想で素材に新機能を

テクノヒロセ(株)代表取締役社長 石川 秀樹



石川秀樹社長

当社は先代会長、廣瀬晋二が手漉き和紙の会社として創業しましたが、1958(昭和33)年に機能紙研究会の現会長である稲垣寛氏(神戸女子大学名誉教授)とともにビニロン100%の合成繊維紙“パピロン”の開発に成功、湿式不織布の分野に進出しました。以来この分野へ展開を進め、80年代初頭には湿式不織布一本に事業を集中、今日に至る成果を得ました。

昨05年末、体制を一新、新たなスタートをいたしました。創業以来築きあげた「伝統」一壊したくないものを受け継ぎ守ることが第一です。その上で新しいことにチャレンジし研究開発にも力を注いでいきます。

ピュアな素材から新たな製品を

当社の大きな特長は、一つめには「小ロット多品種生産」であることが挙げられます。これは機能性不織布の宿命とも言えますが、当社の方針として安易なマスプロダクトに流されることなく、生産量は少なくとも人々の生活を確実に改善していく湿式不織布の技術を追究すべきだと考えているからです。

もう一つは、ピュアな素材からなる湿式不織布の製造です。不織布と言うと原料の複合混合で機能性を付与するもの

と思われがちですが、当社はむしろポリエステル100%のようなピュアな素材の原反をつくることで、独特の機能性を引き出す手法をひとつの道と考えています。

バインダーに他素材を使用すればピュアでなくなってしまうのが難しいところですが、ビニロン100%の“パピロン”を創りだし、また世界でもっとも薄い湿式不織布をつくった独自の技術が、他に真似のできない当社の資産となっています。原紙の抄造は廣瀬製紙が、薬品の塗工や含浸などの二次加工はテクノヒロセが行っています。

フィルター、メディカルも需要拡大

ISOは14000シリーズを04年11月に取得しました。今後は環境に配慮した製品や製造工程、あるいは環境浄化に役立つ製品づくりに注目していきます。

当社には創業以来、製品の製造によって人間の文化的・健康的な生活の実現に貢献していくという理念があります。例えばセパレーターは電池となり文化の向上のために世界へ広がっていきますし、環境面では繰り返し使用、あるいは長寿命化によって環境負荷の低減を目指していくことができます。

現在の製品は電池用セパレーターが

多いですが、最近はフィルター、メディカル用途も需要が拡大しています。フィルターは食品用途のほか工業用途を伸ばしたいと考えています。電気資材、土木建築資材、食品関連、印刷基材、日用雑貨といった分野へも製品展開しています。

輸出先はアメリカ、ヨーロッパ、そしてアジアでは中国が大きくなってきています。中国では今後デリバリー時の仕上加工などの拠点確保を検討中です。

「ヒロセ」を知ってください

今回の展示会では世の中の進歩を肌で感じられると思います。技術的な取り組み、方向性を見極めるマーケティングの場になれば、と思っています。

またガイドブックに載ることで、わが社を世界に知って頂くチャンスになれば幸いです。

四国・高知の自然いっぱいの中にある、環境に配慮した活性ある企業です。皆さん、ぜひヒロセを知って下さい。



テクノヒロセ工場

企業概要

○廣瀬製紙(株)

【設立】1958年3月

【代表者】代表取締役社長 小松茂彦

【所在地】

〒781-1103 高知県土佐市高岡町丙529

TEL088-852-2161 FAX088-852-6672

○テクノヒロセ(株)

【設立】1994年3月

【代表者】代表取締役社長 石川秀樹

【所在地】

〒781-2151 高知県高岡郡日高村下分277-2

TEL0889-24-5200 FAX0889-24-7019

【製造・販売品目】

各種湿式不織布、特殊紙によるバッテリーセパレーター、フィルター用濾材、メディカル、電気資材、食品関係、土木建築資材、印刷基材、日用雑貨その他

URL: <http://www.hirose-paper-mfg.co.jp/>

E-mail: info@hirose-paper-mfg.co.jp